

令和4年度第1回瑞浪市図書館協議会会議録

■日 時：令和4年11月9日（水）14時から15時10分まで

■場 所：中央公民館 2階 視聴覚室

■出席者（名簿順・敬称略）

《委 員》井上典子、岩島哲也、岩島留美子、小栗茂、湯原定雄、永江美年子、水向裕樹
《事務局》指定管理者（特定非営利活動法人こまどり会）：早川美幸（瑞浪市民図書館長）
社会教育課：奥谷ひとみ（課長）、山路雅子（課長補佐兼係長）、榊原勝哉（主事）

■欠席者（名簿順・敬称略）

《委 員》遠山みゆき
《事務局》指定管理者（特定非営利活動法人こまどり会）：安藤昇（理事長）

■内 容

- 1 委嘱状交付（机上交付）
- 2 委員紹介（資料1の名簿にて確認）
- 3 会長選出・あいさつ（湯原定雄委員を会長に選出）
会長あいさつ：市民の立場から率直な意見を出し合って務めを果たしていきたい。
- 4 瑞浪市図書館協議会の概要（事務局より資料2に基づき説明）
- 5 議題

（1）令和4年度市民図書館の事業計画の進捗状況について（事務局より資料3に基づき説明）

委 員：ブックトークの例や学年等はどうのような状況なのか。

事務局：今年度は本日から開始し、明世小学校の1～6年生と特別支援学級へ行くことになっている。例えば2年生では、授業の教材で使用する手紙を題材にした絵本を用いている。結末の手前のいいところで読むのを終え、その後どうなったのか本に手を伸ばさせる工夫をしたり、実際の手紙を持参し、手紙の出し方を教えたりしている。特別支援学級に行く際は、本の内容に合わせて魔法使いの扮装で行く等、興味を引くよう工夫している。

委 員：子ども向けの事業が多いと感じるが、その狙いや意図は何か。

事務局：当市図書館は20年くらい前から乳幼児の読み聞かせに力を入れ、県内でも早くからブックスタート事業を実施していた。子どもは一人で図書館に来られない。親になった時点から絵本に手を伸ばし、親子で楽しむ時間を過ごしていただき、早くから本を読む習慣を身に付けていただきたいと思います。本の良さ、心の育ちにつながることや子育ての疲れを癒すことを伝えている。はじめは毎週土曜日に大きい子ども向けに実施していたが、小さい子ども向けのひよこの日を作った。英語に関心のある親が多いので今年から英語のひよこの日を始めた。幼稚園、児童館、子育て支援センターへ出向き、親に向けて絵本の話をしている。読み比べ等を行い、読みきかせは大人にとっても子どもにとっても楽しく宝物の時間だと話している。

(2) 図書館資料の収集方針および除籍基準について（事務局より資料4に基づき説明）

委員：選定会議はどのくらいの頻度で行っているのか。

事務局：会議は月1回、それ以外に毎週職員間で紙媒体のリストを回覧している。市民からリクエストのあった本を選書リストに載せ、職員一人一人から所蔵するかしないかの意見をまとめて多数決で決めている。

委員：釜戸で見つかったパレオパラドキシア等に関する瑞浪市独自の本等はあるか。

事務局：化石の本は所蔵している。

委員：分類は全国的に決まっているのか。

事務局：当館では十進分類法を使っている。

委員：貸出割合も選書の際に関係あるのか。

事務局：関係ある。小説などの貸出が多いため文学の分類本が多くなっている。社会科学、美術工学、手芸、食品等も多くなっている。

委員：流行りや話題の本を展示等で市民に伝えているか。

事務局：毎月広報で図書館職員のおすすめ本を紹介している。図書館入口左側に特集本コーナーがあり、亡くなった作家の特集を組むこともある。がん月間、認知症月間の時は担当課と相談しながら展示本を確認している。

人気本の複本購入は、分室を含めた4館分で合計4冊としている。図書館の複本保有については、本の購入阻害の意見等を背景とした作家と日本図書館協会の取り決めがあるが、厳密に守っていない図書館もある。予約の多さから10冊購入したが、2か月先には閉架書庫へ移動させた図書館もあった。

委員：自分で本を購入しても1度しか読まない。読みたい本を図書館ですぐに買ってもらえるということを聞いてすごいと思った。大事な本は購入し持っているが1度目を通すと2度目はなかなか読むことがない。お金を出すくらいなら図書館で借りようと思ってしまうが、実際に本の購入要望はあるのか。

事務局：ある。ほしい本をリクエストできることを知らない人が多いので、本の予約をしようと思い合せてきた人に「今は本がない」と言うと「もう結構です」という人もいるが、購入可能なので遠慮なくリクエストしてほしいと伝えている。

委員：5ページの除籍方法(4)「当館以外の公の施設や利用者に希望がある場合は活用を図るものとする。」とあるが、どこで活用しているのか。

事務局：図書館入口の風除室の左側に除籍本をリサイクル本として置いている。公民館文化祭にもリサイクル本を出している。

(3) 駅北複合公共施設における瑞浪市民図書館のあり方について

(事務局より資料5に基づき説明。今回情報共有し、次回以降、継続協議とする)

◎質疑・意見交換

委員：要覧16ページの学校貸出を見ると中学校の貸出がとても少ない（一部中学校の記載漏れ指摘あり）。学校図書室担当も異動があり、コロナ禍でもブックトークや学校貸出が可能であることを把握できていない可能性もある。実施している学校と実施していない学校

とで差が出来てしまう。図書館側からどんなことができるのかを提案していただければ、活用が広がると思う。以前は学校で図書館の蔵書検索ができたが、現在もできるのか。

事務局：現在はできない。インターネット上では蔵書検索ができる。以前は学校と図書館がシステムネットワークでつながっていたため学校で図書館の蔵書検索ができた。非常に画期的なことであったが、図書館システムを更新する際、諸事情によりこの仕組みはなくなった。

委員：学校内の蔵書検索はできるため、必要な時に子どもたちが検索しているが、やはり蔵書数にも限度がある。学校内で蔵書が見つからなければ、インターネット端末で図書館の蔵書検索ができるシステムがあると非常にありがたい。小中学校の図書室として図書館の蔵書検索ができることは非常に大切になってくると思う。またご検討いただきたい。

事務局：学校と図書館がつながりにくい状況があるということか。

委員：図書館でどのようなサービスを提供できるのかを学校が把握できておらず、学校の判断だけで行っているところもある。

事務局：図書館にどんな本があるかがすぐ分かるとういことか。

委員：検索する上でシリーズ、特集本の他に職場体験等に特化した本が分かるとうい。

事務局：図書館が提供できるサービス内容を定期的に学校に周知できれば、担当者が代わっても伝わる。蔵書検索システムはすぐに対応できないが、できることから対応していけるとよい。

事務局：他市では学校用の複本を図書館の予算とは別で購入し、定期的に学校に配布をしている。学校からの予約本もその中に入っている。

委員：学校貸出は本を届けてもらえるのか。

事務局：人員体制の問題で届けることができないため、取りに来てもらっている。

委員：図書館から情報を発信することも大事だが、学校現場が情報を取りに行くことも大事だと思う。過去に中学校のブックトークで職場体験学習用に様々な職種に関する本を持ってきてもらったことがある。学校担当と図書館職員が一緒になって、ブックトークを通して職場体験学習のその先に点と点を線にするような動きが出来たことがありがたかった。せっかくの情報源があることを市民や学校現場が認識することと、その情報源をいかに効率よく使っていくか、借りる側の範を示してほしい。図書館の活用例を提示していただくことが、今後新しい図書館を考える時にも大事な一面になるのではないか。また、新図書館に関する今後の協議に向け、これまでに実施したパブリックコメントで集約した図書館に関する意見等を提示していただきたい。

事務局：ブックトークでは、紹介する本の他にクラス全員分の本を持っていき、各クラスに2週間置いてくるようにしている。返却の際は学校の先生に持って来ていただいている。

委員：今年度はあと何回ブックトークに行くのか。

事務局：明世小学校、土岐小学校、釜戸小学校、日吉小学校の4回行く予定でいる。

委員：少ない職員数で運営されていること、また、ブックトーク時のクラスごとに一人ずつの本を用意するのは膨大な業務量で本当に大変だと思う。

委員：まずは図書館に来てほしいと思う。図書館は敷居が高くて行ったことがないという人がいたが、説明したり誘ったりして一度来てもらってからは来てくれるようになった。図書館のことを知ってもらい、将来の担い手である子どもたちに育ってほしいと思う。

委員：学校によって蔵書数は違うのか。

委員：学校規模によって蔵書数が違う。標準冊数が決まっている。

事務局：高校の蔵書冊数はどのようか。

委員：私立と県立でかなり違う。私立はそれぞれだが、県立だと生徒の定員数で変える予算が決められている。今年何人でいくらと一人当たりの冊数が決まっている中で選書が行われている。古い図書室に手を加えて木質化をすることでぬくもりのある空間にするところもある。

事務局：高校生図書室の利用状況はどのようか。

委員：高校図書館司書での協議会では、本が読まれなくなっていることが必ず議題にあがっている。中にはテレビも電子書籍も漫画も見ずに動画のみ見るという生徒もいる。本以外の媒体が多く存在する中、本や図書館をどのように利用してもらうのか、司書が苦戦している部分になっている。

事務局：そうした世代に対し、新たな複合施設はどうアプローチするのも課題となる。

会長：本日の協議を通して、図書館は市民とどうつながるのか、学校との連携はどうあるべきかという課題が整理できたように思う。

6 その他

委員：駅北複合施設の整備が令和10年度を目途に計画されているが、今この1時間の審議や残り1回の審議で意見が反映されるのか、本当に伝わるのか心配している。パブリックコメントで市民の意見を聞いているが、直接面と向かって話をしないと市民は何も言わない。複合施設の機能をよく周知させることが大切。

事務局：新施設の周知は今後確かに重要となる。現段階における市の協議体制として市民を交えた意見交換の場が少ないことについても、動きとしては遅いと感じている。ただ、新図書館の運営に関する内容についてはまだ反映の余地があると認識している。この協議会ではどのように本の楽しさを伝えていくのか、学校との連携をどうしていくのかといった運用面について主に協議していけたらと考えている。